

**2020年カレンダー**  
**中国 悠久の旅**

2020年版から  
 使いやすい  
 中とじタイプに!

中国 悠久の旅

2020

7月 天宮の塔(南京) 9月 瀋陽公園の湖

●B4判(縦257mm×横364mm) ●28ページ中綴じ ●定価 1,200円(送料別)

1月/川原下村 2月/元澤、延島 3月/泰山(南門) 4月/明(南京) 5月/泰山の大仏  
 6月/蘇州の三園 8月/莫干山 10月/カイラス(チベット) 11月/京都 12月/夜の瀋陽

企画制作 **日本中国友好協会** 〒111-0053 東京都台東区浅草橋5-2-3 錦和ビル5F  
 ☎03-5839-2140 ☎03-5839-2141 E-mail:cnichu@jcf-net.jp

**2020年カレンダー「中国 悠久の旅」申込書**

氏名	住所	電話番号	郵 郡

取り扱い団体・個人  
 日中友好協会岡山支部 小林聖治 TEL. FAX 086-277-2470  
 メールアドレス: rzhongyouhao@otmail.co.jp  
 携帯: 090-8240-2001

「中国悠久の旅」カレンダー販売まもなく開始  
 —2020年版から使いやすい中とじタイプに—

2020年の日中カレンダー販売がまもなく始まります。

このカレンダーは、中国の歴史・地理・世界遺産、発展する現代の中国などで作られています。

今年の特徴は、使いやすく、販売しやすい「中とじタイプ」になっています。

2003年の岡山支部は次の目標を掲げて、販売を始めました。

一、残留中国「残留孤児」訴訟支援の一環として取り組む。

二、日中の財政に寄与する。

三、中国に対する正しい理解を広げる。

今年、岡山支部は昨年より50部増やし300部、倉敷支部は100部を目標にしています。

今回も、2011年に結成された中国帰国者の尊厳を回復する岡山の会、日中岡山、倉敷支部の財政に寄与するとともに、中国に対する正しい理解を広げる「活動を一層重視して取り組みたい。」

9月下旬には現物が到着します。同封の連絡先にお申し込みください。一部1200円です。

(同封の申込用紙を活用してください。)

日中  
 おかやま  
 題字 草原田 親  
 No. 904  
 2019/9/25

**日中友好新聞**

発行所  
**日本中国友好協会**  
 〒111-0053 東京都台東区浅草橋5-2-3 錦和ビル5F  
 ☎03-5839-2140 ☎03-5839-2141  
 FAX 03-5839-2141  
 http://www.jcf-net.jp  
 E-mail:cnichu@jcf-net.jp  
 社印 00119-1-21178

**日中友好協会 岡山支部**  
 〒708-0034 岡山市北区下伊福 西町1-58 民生会館1F  
 TEL: FAX 0861258-8808

**日中友好協会 倉敷支部**  
 〒713-8031 倉敷市福河町東22461-45  
 TEL: FAX 0861411-7800

日中友好協会岡山支部ホームページ  
<http://rzhongyouhao.jinaa.net>  
 メールアドレス  
[rzhongyouhao@yahoo.co.jp](mailto:rzhongyouhao@yahoo.co.jp)



**2019市民のつどい**  
**「憲法がないとどうなるのか?」**  
**私たちの生活から考える〜**  
 講師 木村草太

9月8日の日曜日に、岡山市勤労者福祉センターで標記の講演がありました。参加者は300人強でした。狭い会場でしたので、もっと多くの人参加かと思いました。

木村さんの前回のお話と同じく“憲法は張り紙である”が冒頭でした。

学校の廊下に“廊下を走ってはいけません”と書いてあるのと同じです、ということですね。

近代国家になってから、国家権力が失敗するととんでもないことになるということがわかってきました。その国家権力の濫用を防ぐための安全装置が必要だから、憲法がつくられたのです。

国家権力の三大失敗が①戦争、②人権侵害、③独裁です。①に対して軍隊と戦争をコントロールするために日本国憲法第2章「戦争の放棄」があります。②に対して人権を保障するために第3章「国民の権利義務」がことごとまかに書かれているわけです。③に対しては権力を分立して、独裁は許さないために第4章から第8章までが書かれています。

第9章「改正」と第10章「最高法規」は、“憲法違反は、やってはいけない。憲法は、多くの人が賛成しないと変えてはいけない。”という考え方を基につくられているのです。

その他、夫婦別姓訴訟と同性婚訴訟についても話されました。

真田

**劉樊艶老師の送別会**

今年5月から4か月間、中国語講座の中級クラスを担当していただきました。劉樊艶老師が1年間の留学期間を終えられて、吉林大學へ帰られます。彼女は吉林大學と岡山大学との交換留学生として、岡山にいられていたのです。

短い間ではありますが、中国の若者として大変率直に、今の中国の生活を話してくださいました。


登山が趣味ということで、大山登山を企画しましたが、残念ながら天候不順で登山は出来ませんでした。

が、蛍鑑賞や、花火鑑賞など一緒に経験しました。

9月に帰国されますので、最後にということで、7日に大連香で送別会を行いました。

ありがとうございました。

真田



**中国映画「単騎、千里を走る」を見て**

今天在日本看了写演的《千里走》，有一帆感。想想是很刺激的特是高健了是我儿的偶像。喜部影、希望中日友好。

今日、私は日本で「単騎千里を走る」の映画を見ました。高倉健は私の息子のアイドルであり、私はそれが好きで、中国と日本が友好的であることを願っています。

# 浩良大島(ごうりょうおおしま)開拓団の幸存者 (生存者)への聴き取り その2 青木康嘉

―逃避行中の思い出は  
逃避行では、浩良河駅で金さんという朝鮮人がご飯を作ってくれた。―

―長春(新京)の思い出は

神泉寮では朝礼があった。ロスケ(当時そう呼んでいた)が持ち物を取っていった。立ち売り(甘酒麴)もした。発疹チフスにもなった。母は三月一五日に発疹チフスで亡くなりました。四九歳でした。裏の順天公園に遺体を安置しようとおもいましたが、土を掘ることもできず、雪をかけるだけだった。幸いにも遺骨は持って帰れました。順天公園にはまだ、他の人の遺骨があるはずです。―  
―浩良大島開拓団では残留孤児は出ない

団でまとまって收容所において一緒に帰ったから、残留孤児を出さずに帰れたと思う。―



## 青木康嘉

七月二三日には、伊藤明子に講演をお願いしたところへ広常人世(岡山大学名誉教授)をゲストとしてお招きした。

広常人世は、父親を早くに亡くし、母と二人で一九四三年に浩良大島開拓団に入植した。広常人世は、一九三二年生まれで国民学校五年生に編入した。母母親の広常栄は、原田賀世の姉であり小学校の先生をしていた。出産後で乳飲み子を育てていた原田賀世に代わって浩良大島国民学校の訓導となった。広常栄の手記を読むと、原田満左右先生に心服していた広常人世の方がむしろ積極的に行きたいと言っていた。賀世からの依頼もあり、広常栄は入植を決断した。

―広常人世先生の浩良大島国民学校時代の思い出は

自分の姓名を名乗るとき声が小さい、元気がないと何度もやり直しをさせられました。―

―他には

夏は草取り作業がつかったですね。雑草との戦いでした。―

―浩良大島開拓団では在団中に赤痢などで九人死亡しています。もし墓地が残っていたらお参りしたいのですが、墓標は、石でしたか、木でしたか。

未で墓標が建っていた記憶があ

―国民学校卒業後はどうされましたか

佳木斯中学校へ進学しました。そこは日本人ばかりでした。ソ連が参戦した時は、空港の近くへ援農に行っていました。―

―避難の様子は

無蓋列車で避難して南又駅で下車して、避難民に食糧を配っていた時、最終列車に乗っていた母親と再会しました。―

―長春の思い出は、何を売っていましたか。

米麴を売っていた。神泉寮の三階で原田さん家族らと一緒に暮らしていた。―

―最後に、広常先生の専攻は漢文学・漢詩と聞いていますが、それは「満州」へいた経験が大きな影響を与えていますか。

「やむしろ原田満左右校長の影響が多分にある。先生から本を借りて読み、漢詩を朗読したり、ずいぶんかわいがってくれた。―

広常人世は、八七歳。招魂には『詳細な手記があるが、そこを尋ねても覚えていない』と言われることが多かった。

浩良大島開拓団について「生証言」を四人から聞くことが出来たので報告する。

## 2019年中国東北部を訪ね日中友好を促進する旅 ③

これまで901号で 誕生の地での交流がすすむ(小林軍治)、902号:3号で 感謝、浩良大島開拓団跡地を訪ねて(伊藤明子)と3回にわたって報告しました。

今回は、添乗員の宮本南海子さんと初参加の小林玉恵さんの感想文を紹介します。

### 前略

今回青木先生の声かけをいただき妹と一緒に中国の旅に一緒にさせて頂き、私なりに感じる有意義な6日間でした。伊藤さん、小林さんの幼いころの記憶はなくても体験したこと、現在の年齢で置き換えてみると本当に残酷なことと思います。八月には広島・長崎と原爆記念日と報道される中、もっと肉親と話してあげられなかったと感じます。

中国では今の私たちの生活では想像もできない生活を送っているが、交流会では言葉は通じなくても筆談・手ぶりなどで通用することもでき、明るさに安心することもありました。ガイドの劉さんの本当に感謝しています。何よりも青木先生の朝の散歩でのお話は本当に「すごい」と思いました。 草々 小林玉恵

先日、中国東北部への旅に初めて添乗させていただきました。至らない

点が多々あるも、皆様のご協力のおかげで行程どおり無事に旅を終えることが出来、大変感謝しております。

また、今回満蒙開拓団について多くの歴史を学び、自分がいかに「歴史を知らない」という状況に甘んじてきたか痛感させられました。「知る」ということは痛みが生じることもありませんが、その痛みを知ったうえで、人間として周りの人たちと一緒に前進していかなければいけない、と奮い立たされました。

この度、添乗しながら学んだことは私にとって一生忘れることのできないものです。こういった機会に恵まれたこと、青木、

小林先生はじめ皆様のおかげです。本当にありがとうございます。ございました。 宮本南海子



次回の新聞送付作業は  
10月1日(火)午後1時半から  
民主会館2階で行います。  
前回お手伝いくださった方です。

葉飼井林田田内  
稲犬河小真曾竹